残りの者 シャーアル

石巻祈りの家NEWS LETTER「シャーアル」(110号)
986-0801　宮城県石巻市水明北３丁目13番28号
TEL /0225-96-1497　Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp
振替口座　02290-6-126186　口座名称　阿部　一
●代表／阿部　一　　●副代表／菊池せい子

信仰：真の自由のための悔い改めと和解

● イースター(復活祭)直後に気温が急上昇し、桜は一気に満開となり、桜前線は石巻を駆け抜けるように北上してしまいました。

● 70歳を過ぎてから、毎年12月末になると「来年は桜を見ることができるだろうか」という思いがいつも心を過ぎります。この冬体調を崩したにもかかわらず、この年も神の憐れみにより爛漫の桜を鑑賞できたことを感謝しています。

● 私が、主の救いに与って、一番変えられた事は、悔い改めと和解の行動を直ぐとれるようになった事です。そして、そのことからの最大の恵みは、真の心の平安と自由を得られるということです。

● 主は「山上の垂訓」で、「だから、祭壇の上に供え物をささげようとしているとき、もし兄弟に恨まれていることをそこで思い出したなら、供え物はそこに、祭壇の前に置いたままにして、出て行って、まずあなたの兄弟と仲直りをしなさい。それから、来て、その供え物をささげなさい。」（マタイ5/23-24）と神の前に立ち礼拝するに先立って、最優先すべき事を教えられました。私たちの神は「和解」の神です。

● 私は職場で、誤解などで問題が生じたり、非難を聞いた場合、第一に心掛けたことは自分の心を点検する事でした。そして、祈りながら、事実に立脚して、決して相手を誹謗するためでなく、その問題解決のためのであること、私が間違っていれば教えて欲しいという自分の意見を率直に手紙に書いて、話し合いをお願いしました。

● 手紙に書くことは、自分自身の考えの再点検と自分の意見に責任を持つことの表明であり、感情的な話し合いにならないように事実に基づいて客観的に解決するためです。

●私の誤りがはっきりした場合は、率直に悔い改め、心から謝罪をしました。辛い厳しい作業ですが、この話し合いで何と多くの問題が解決され、互いが深い信頼で結ばれて新たな関係が構築されるという貴重な経験をしました。

● ダビデはバテ・シェバとの問題を犯し、その罪を知りながら権力を用いてそれを隠蔽しようと、遂にはその夫ウリヤを間接的に殺害するまでしてしまいました。

● 彼は、悔い改めないでいたときの心の激しい苦悩と神の前で必死に悔い改めたとき（詩篇32, 51篇）の幸いと平安を赤裸々に告白しています

● ケズィック選集「キリスト者の罪」には、F･B・マイヤーが、悔悟金（誤魔化していた金の返済）の講演をしたとき、心探られた人々が郵便局に押しかけ、その土地の為替券が無くなってしまったという出来事があったことが載っています。

● このように、私たちの良心が錆びていないならば、神は私たちの心に必ずささやきかけます。真の自由と平安をいただくために、自分を甘やかして、見ようとしない神および他人との間にある問題・罪を、心からの悔い改め、謙遜にその問題の和解に向けて行動を起こす聖化への道を歩むことが、今私たちに求められているのではないでしょうか。

■ 先月の多くの恵みから

❶ 2017年度の年次総会が4/23に開かれ、昨年度に神と皆さまからいただいた祈りの支援・訪問・電話･手紙・献金･献品などを通しての沢山の恵みに感謝し、「彼らの中で世の光として輝くために、いのちのことばをしっかり握って」を目標に、開所年10目の歩み始めました。

❷ 4/16のイースター礼拝は、例年の通り、石巻山城町教会（関川祐一郎師）で合同礼拝をさせて頂きました。礼拝後の「祝会」もご一緒させて頂いて、主の復活を覚えて兄姉と親しい交わりをさせて頂きました。

❸ 4/6に3/21の開所式に出席できなかった南三陸福音教会（南三陸歌津/阿重師植）を訪問しましたがお留守で残念ながら会うことができませんでしたが、神の祝福と導きを祈って、後日お手紙を差し上げました。

❹ 4/2の礼拝に退院して自宅で経過療養している大平さんがご主人と娘さんとともに礼拝に出席されました。右手足のしびれで歩行が困難なために、薬物治療とリハビリで経過を見ておられます。回復が進みますようにお祈り下さい。

❺ 4/13に石巻オアシス教会（趙泳相師）での三浦綾子読書会顧問長谷川与志充師の講演会に参加させて頂き、「道ありき」からのメッセージを学ぶことが出来ました。

❻ 4/19に「宮城三陸3.11東日本大震災追悼記念会」準備会で、この3/11と3/12に気仙沼と石巻で開催された集会の感謝と反省、次年度に向けての話し合いが持たれました。

❼ 4/20には、「東松島Amazing Grace Center」で4月のIMNの集会が開催され、石巻地区の教会の協力と市民の救いのために心を合わせて祈りの時を持ちました。

❽ 4/22、大阪の濱中さん、4/25に千葉みどり台教会の盛川兄4/29に時田勝治師チームが訪問下さいました。

❾ 4月も支援に関する活動に必要な資金、献品で小さな群を支えて頂いて心から感謝します。

❿ 5/5に大籠キリシタン殉教公園に教会ピクニックに出かけます。良き交わりの時となりますようにお祈り下さい。

■ 今月、次の課題を祈っていただければ幸いです。

① 自宅で療養中の大平姉の病が改善に向かいますように。
② 教会活動と地域から真剣に求道する人が起こされますように。

群の定期集会

・礼拝（毎週日曜日）	10：00-11：30
・祈り会（毎週水曜日）	10：00-11：30
・聖書を読む会(第1火曜日)	10：30-12：00
・ほっと・Time (第3火曜日)	10：30-12：00
・コーラス「花」（第2,4木曜日）	13：30-15：00
・楽しい手芸（第2,4月曜日）	10：00-12：00
・学習支援（地域の子どもの要望に応えて）	

信仰を詠う

5月　　迎　　春

地面踏む　力の加減計りつつ
　膝痛む人と重ね　一呼吸

言(こと)痛む　陰に潜むは工事中の
　標示のわたし　信号を待つ

辛いのは自分で良かったと思いたい
代われぬ現実(いま)に　わたしのねがい

阿 部 八重子

蕗の薹、こごみ、あまどころ、迎春の息吹きの生気を戴く喰いしんぼうの81才、とにかく今日一日を感謝します。

● <祈り> 私たちの「祈りの家」が10年目の活動に入りました。福音を携え、地域で世の光として輝けるよう祈りの支援をお願い致します。

３月と４月半ばまでに来訪されたと先生・兄姉および祈りの家の教会活動の様子

3/26Wycliffeの阿部宣教師が報告会

聖書を読む会終了後の楽しい交わり

3/10 「希望の家」でのMIGIWA Concert

3/12 永井敏夫師の礼拝奉仕 に感謝！

3/16コーラス「華」介護施設やすらぎの家に歌の訪問

3/19 西堀C福音Cの関口姉チーム来訪

4/22 大阪の濱中 忠さん来訪

3/26 メンターの森谷師礼拝奉仕

「楽しい手芸」の会はかざり用帽子作成

3/31 ICCCで台湾と石巻の牧師交流会

4/6 歌津の「南三陸福音教会」3/21発足

4/20 宮城三陸大震災追悼記念会準備委員会

アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」＝主の山に備え在りの意

この9年間を振り返って

「祈りの家」は「祈られの家」

キリスト教会「石巻祈りの家」会員　阿 部 秀 子

始まりは2008年2月でした。福音が語られなくなった教会に疲れて、家族3人が「少し、休ませて欲しい」と教会に申し出ました。私たちはそのことを教会の誰にも話さずに、他の教会の礼拝に出席して、また戻るつもりでした。

今の「祈りの家」の建物が、準備されたようにありました。その週の水曜日の夜の祈り会に八重子姉が加わり、次の主日礼拝にはもう一人の姉妹が加わり、さらに加えられる人々が続きました。先のことは分からなくても、主を礼拝して歩みたいと第1回の主日(2/17)から、週報も作りました。更に、仙台バプテスト神学校長の森谷先生から「信仰から離れる人がないように、あなたの家で集会を始めてはどうでしょうか」と勧められ。その道もあるかと。

驚いたことに3/27には酒田在住の期間にお世話になった酒田ルーテル同胞教会の兄姉が「開所祝い」の献金を送って下さり。5人の兄姉が「チーム酒田」を結成して、この集会のために祈り続けると言って下さったのです。「それって、何？」が私の最初の受けとめでした。その祈りのチームは更に人数が増えて、この時以来ずっと物心両面でこの群を支え続けて下さっています。主のなさったことでした！　4/6の新年度の礼拝は石巻の病院に勤めることになった姉妹（その姉妹の牧師から、信徒だけの群と承知して、群で育てて欲しいとのお話しでした）と石巻専修大学の学生も加わって、11名でスタートしました。間違った歩みをしたら教えて頂きたいと森谷先生にメンターをお願いし今に至っています。

思いがけない形で始まった教会「祈りの家」は、本当に不思議としか言いようのないほど、様々な方たちに祈り支えられてきました。・・神さまのお名前が「不思議」なので、その通りなのですけれど・・。

そして、2011.3.11の東日本大震災です！

自宅から30km位離れた従兄弟の家に半月ほど避難させてもらって3/29に石巻に帰った翌日、何と仕事で仙台に移住されたばかりの真奈姉妹とディーン先生が、サマリタンズ・パースなどの支援団体からの支援物資をいっぱい積んだトラックと共に、最高の笑顔で教会の前に立っていらしたのです。驚きました！　それから連日、津波で店が無くなり買い物の出来なくなった町内の人々のために、また、近くの仮設団地のため、沢山の品物を運び続けて下さいました。初めは、教会前の駐車場で、その後、教会の建物の中で祈りと愛が詰まった支援の品々が必要な方の手に渡されました。頂いた方たちの「信じられない！」の驚きや喜び、涙が・・今も思い出されます。

4/10、震災後初めて「祈りの家」での礼拝が持てました。「小さな群よ。恐れるな。あなた方の父は喜んで神の国を下さる」（ルカ12/32）その通りでした。支援活動を通して、神さまは世界中の神の家族に会わせてくださいました。目を見張り、息をするのも忘れるほど、まいにち毎日。毎主日！

支援に来てくださる方たちが、遙か遠くの地からも被災者の人達の痛み苦しみを自分のことのように嘆きながら、財を削り、また募って、持てる賜物を献げて、疲れる体をお互いに励まし合いながら来続けて下さった尊い愛。「それほどまでに私たちのため？！」と感動するばかりでした。十字架で死んで下さった主の息づかいさえその方たちから聞こえるようでした。

- 支援物資（必要なものは何でも。また楽しいものも）や献金を届け続けて下さる方たち
- お忙しい日々の中から、神さまのメッセージを携えてきて下さる牧師・宣教師の方々
- 「どうしているか」と電話をかけ続けて下さる方たち
- 「只今！」とここがご自分の家みたいに心配しながら帰って来てくださる方
- 「また、来たいから」と1年間、日本語の勉強をなさって再度お出でになったハーバード大の学生方
- 月報「シャアール」を隅々まで読んで、祈り、お手紙を下さる方
- 「毎日押し出されるように祈っている」と励ましを下さる方

・・・1つ1つ上げたら、ものすごい長さの巻物が出来るほどの恵みでした。

そして、豊かな食卓がいつも与えられました。私たちは石巻から動かないのに、日本中各地から、外国の美味しいものも届き、感激しつつ頂きました。

仮設を出て復興住宅に入られた方、自宅再建の方、まだ仮設に残って居られる方・・・。6年という一応の区切りのこの時期に言いようのない感謝の思いでお礼を申し上げます。そして、震災故に新しくできて、これからもずっと続く深いつながりの家族達と会えたことは素晴らしいことです。

「雲のように多くの証人に囲まれて（ヘブル12/1）」、私たちは今まで支えられてきています。心をかけ続けてくださっている皆さまに、主の祝福を私たちも祈り続けます。そして私たちもこの地で主がなさりたいと思われる働きをさせていただきたいと願っています。